

| | 10:00 | 13:00 | 15:50 | 18:20 |
|------|---|---------------------------|---|--|
| 8日④ | 戦後在日五〇年史 [在日]歴史篇 ★清水千恵子 さん (本出演) | 伽椰子のために ★小栗康平 監督 | キューボラのある街 ★田島良一 (日本大学演劇部映画部学芸部長) | 有りがたうさん [清水宏監督作品 併映] 上映原簿 古賀太(日本大学演劇部映画部学芸部長) |
| 9日⑤ | 沈黙 ——立ち上がる慰安婦 ★朴南雨 監督 予定 | 絞死刑 ★足立正生 さん (映画監督) | 授業料 [配給映像 併映] ★富田美香 さん (国立映画アーカイブ 主任研究員) | 空と風と星の詩人 ～伊東柱の生涯～ ★寺島蘭 さん (映画プロデューサー・映画評論家) |
| 10日⑥ | にあんちゃん | GO | キューボラのある街 | 血と骨 ★崔洋一 監督 |
| 11日⑦ | KT | 授業料 [配給映像 併映] | 戦後在日五〇年史 [在日]歴史篇 | パッチギ! ★羽原大介 さん (脚本家) |
| 12日⑧ | 空と風と星の詩人 ～伊東柱の生涯～ | パッチギ! | にあんちゃん | かぞくのくに |
| 13日⑨ | 血と骨 | 沈黙 ——立ち上がる慰安婦 | 伽椰子のために | KT ★荒井晴彦 さん (脚本家・監督) |
| 14日⑩ | 絞死刑 | かぞくのくに | 有りがたうさん [清水宏監督作品 併映] | GO ★行定勲 監督 |

映画学科の皆さまが、毎回しっかりとテーマを見つけ、映画祭を開催して勉強する姿に、感心しています。『キューボラのある街』は、1962年の作品です。真冬の川口駅前で、深夜に大勢の人々が朝鮮の歌をうたい、私達の映画を盛り上げてくれました。そして彼らは帰還船に乗り、故郷に帰って行きました。今、私達は、朝鮮半島の歴史・文化・現在の暮らしをしっかりと見つめ、語り合いたまいます。

吉永小百合

まるっきり無策の日本外交をよそに、今年は朝鮮半島情勢が大きな変化を迎えている。2月の平昌五輪を皮切りに南北が歩み寄り、4月の首脳会談から6月の米朝首脳会談と連日、その年の終わりに、日本の朝鮮半島支配以来一世紀以上に及ぶ歴史を映画でたどる試みは極めて有意義だ。学生たちの真摯な企画を心から支持したい。

寺脇 研 (映画プロデューサー・映画評論家)

映画とは、世相の影響下にありながら、同時にその世相をバッサリと切る、隠晦味に満ちた創造物です。したがって、世界の大きな映画祭から小さな映画祭まで、その存在を讃けて、思いぬくのは言うまでもありません。極めて、嬉しい時に、極めて嬉しい、なおかつ、避けて通れない、現実感に満ちた企画を進める若い世代の冒険と繊細な感受性に感謝しつつ、作り手として、共に参加させてもらう機会を喜び、映画祭の成功をお祈りします。

崔 洋一 (映画監督)

韓国人は何かにつけ、日本を意識しています。日本は意識の領域にある存在なのです。日本人は韓国人を、ふだんは意識していません。しかし心の深いところで、韓国の大きな影に動かされています。簡単にいましょう。韓国とは、日本人の無意識のなかに横たわっている何ものかなのです。どこにでもある歴代天皇の古墳を開けて、四方の壁に飾られた神獣たちの絵面を調べてみれば、そんなことはたちどころに判明するのでしょうか。映画というステキな装置がなかったとしたら、誰がこの無意識を思いっきり掻き立てられるのでしょうか。

四方田 犬彦 (映画・比較文学研究者)

前売券:1回券=(一般・学生ともに)¥800 / 3回券=¥2,100
当日券:1回券=一般¥1,200・学生¥1,000 / 3回券=¥2,700
各回入場料・会場費別添

■開演はそれぞれ上映開始10～15分前です
■8日(土)、9日(日)、13日(木)は9:30より、10日(月)～12日(水)、14日(金)は10:00より
■その日ごとに観覧券等の引換券/当日券の高値を補助します(現金のみ)
■会場内では日本語が通じます(現金のみ)
■ユーロスペース劇場HPでは3日前～名義院検1回券券が購入できます
●(名義院検)クレジットカードのみ。詳しくはユーロスペース劇場HPをご覧ください
●オンライン予約は他映画祭でも定期券を受け付けていません。上映映画は変更が予想されます。お早めにお引換えください
●前売券は3日前より劇場窓口にて高値観覧券とお引換えできます。オンラインでのご利用はできません
●やむを得ない事情により休会、上映原簿、及び上映映画が変更になる場合がございます
●製作から長い時間経過しているため、次回観覧し難い作品や中止の可能性がある場合がございます
●トークショーは変更、中止となる場合がございます

2018 12.8(土)→14(金)
ユーロスペース
EUROSPACE
渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F
TEL: 03-3461-0211 HP: http://www.eurospace.co.jp



朝鮮半島

知らないだけではいられない



私たち

現役日藝生による映画祭



2018 12.8(土)→14(金)
www.facebook.com/nichigai-ejtsai/
@nua_ejtsai2018
nichigai-ejtsai.com

主催:日本大学演劇部映画部学芸部長 堀田 正一(日本大学演劇部映画部学芸部長) / ユーロスペース
上映原簿:アリソン・ラウ(台湾) / 上映原簿:大友良英(日本大学演劇部映画部学芸部長) / 上映原簿:イ・カンフ / 上映原簿:成澤 洋一
[在日]歴史篇:清水千恵子(日本大学演劇部映画部学芸部長) / 上映原簿:Urban Film Archive
[在日]歴史篇:田島良一(日本大学演劇部映画部学芸部長) / 上映原簿:Urban Film Archive
[在日]歴史篇:富田美香(国立映画アーカイブ 主任研究員) / 上映原簿:Urban Film Archive

本当は何も知らない私たちのために

今年で8回目となる日韓企画・運営の映画祭。私たちは、授業で見た『キューボラのある街』(1962)がきっかけで、初めて「帰国事業」という言葉やその歴史を知った。それは衝撃だった。学校で教わることもなく、また毎日の報道の中でもなかった朝鮮半島と日本の歴史が、驚くべき事実が、映画の中に、深く、強く、描かれていた。「知らなかった」では済まされぬ過去に、それまでの自分たちを驚かした。

今では、韓国は日本にとって地理的にも、文化的にも身近な国となった。お互いの国を多くの旅行客が行き来し、日本ではK-POPや韓流ドラマが流行する。しかもそんな今日においてなお、私たち学生が「朝鮮半島」というテーマに抱くイメージは曖昧なものだった。「慰安婦」や「拉致」がアクチュアルな問題として世界では扱われているのに、私たちは隣国は疎か、自国のことすらよく知らない。

これまで多くの映画人が、朝鮮半島と日本の姿を果敢に映し出してきた。呉徳洙「戦後在日五〇年史 [在日] 歴史篇」(1997)は、激動の約半世紀における2か国間の様相を提示する。日本統治下の朝鮮で製作された崔寅奎「授業料」(1940)や、清水宏による貴重なドキュメンタリー作品は、当時の町の様子や人々をありのままに写すなど、本映画祭の文脈に迫った在日2世のヤン・ヨンヒによる「かぞくのくに」(2012)など、本映画祭ではできるだけ様々な切り口から、朝鮮半島と日本の姿を捉えた作品を取り上げる。

過去は捨てても、どこまでも追ってくる。だからこそ本映画祭を通して、観客の方々と共に、朝鮮半島と日本の「他人事」になってしまった問題を、改めて「身近なもの」として考え直してみたい。この歴史の延長線上で、「私たち」は生きているのだから。



有りがたうさん
清水宏/1936年/日本/35mm/76分/配給:松竹キネマ
川柳康成の小説『有難う』の映画化作品。上原謙演じるバス運転手、通称「有りがたうさん」が伊豆で様々な事情を抱えた乗客を乗せる。婚約が先られてゆく娘のほか、貧しい朝鮮人労働者がききもと描かれ、胸に刺さる。観客への優しきを見せる清水宏の秀作。また当時の日本映画界では珍しい全編ロケーション撮影が敢行されており、1930年代の日本の美しい原風景を収めている。日本統治下の朝鮮で撮影した清水宏の短編2作を併映。

京城
清水宏/1940年/日本/35mm/24分/配給:朝鮮総督府映画局/所蔵:国立映画アーカイブ
大都市「京城」(現ソウル)の生気あふれる1日を記録したアヴァンギャルドな一編。劇中の映画館の立て看板には「授業料」の文字が見え、崔寅奎との交流を思わせる。

ともだち
清水宏/1940年/日本/35mm/13分/配給:朝鮮総督府映画局/所蔵:国立映画アーカイブ
『京城』撮影と並行して製作された、日本人少年と朝鮮人少年の交流を描いた短編映画。豊かな自然と城跡の遺された原風景が伸び伸びと映し出される。現存フィルムは音声が入っていないが会場で脚本配布予定。



授業料
崔寅奎/1940年/朝鮮/DOF/83分/所蔵:韓国映像資料院
2014年、韓国が中国電影資料館から35mmプリントを入手し、デジタル復元した作品。「京日小学生新聞」で朝鮮総督賞を受賞した小学校4年生のウ・スヨンの作文を原作に、高麗映画協会が製作。父母の送金が途絶え祖母と貧しく暮らす高梨達と日本人の田代先生の「授業料」を巡る交流を描く。日本語と韓国語が半々で使われており、作曲は清水宏作品にも参加している伊藤直二。日本統治下の朝鮮で撮影した短編2作を併映。

戦後の朝鮮
朝鮮総督府/1937年/朝鮮/Blu-ray/8分/所蔵:韓国映像資料院
1930年代の日中戦争における日本の勝利を宣伝する映画。朝鮮総督府の全象、大日本帝国の国旗を振る人々、戦争支援のために募金、千人針運動をする当時の一般朝鮮人の姿が映っている。

朝鮮の愛国日
朝鮮総督府/1940年/日本/35mm/13分/所蔵:韓国映像資料院
日本統治下の朝鮮で全国的な啓蒙を促すために製作された映画。文相に旭日旗を掲げ、神社で参拝する朝鮮人の姿がしたいに日本化されていく朝鮮そのものを映し出す。『戦後の朝鮮』と共にロシアで発見された映像。



にあんちゃん
今村昌平/1959年/日本/35mm/101分/配給:日活
在日コリアン2世の安本実子が10歳で奪ったベストセラー手記を、今村と池田一朗が脚色し映画化。船と鼻袋飯で働く安本喜一ら四兄妹は、相次ぐ炭鉱事故と閉山により引き離される。貧しくても、彼らは懸命に生きていくこととした。在日コリアン労働者の実像を交えて移り行く時代に生きる兄妹の絆と愛を描いた。今村映画屈指の優しさに満ちた作品。『キネマ旬報』ベストテン3位。



キューボラのある街
浦山桐郎/1962年/日本/35mm/100分/配給:日活
浦山桐郎の第1回作品にして吉永小百合の出世作。鋳物工場の隆空、通称「キューボラ」が立ち並ぶ埼玉栗川口市。中学3年のジュンは、父親の失業により極貧生活を強いられながらも、パチンコ屋でアルバイトをして高校進学を目指す。高度経済成長期の庶民と共に、帰国事業で北朝鮮に渡る在日コリアンの姿も鮮明に映し出す。共演は日活純愛線コンビの浜田光夫。『キネマ旬報』ベストテン2位。



絞死刑
大島渚/1968年/日本/35mm/117分/配給:日本アート・シアター・ギルド
在日コリアンの死刑囚Rは、執行中に一命をとり止めるに神喪失状態に陥る。困り果てた刑務官と検察官たちは、Rの犯した強盗の過程や在日コリアンとしての出生を芝居で再現し、死刑執行を確立させようとする。1958年に起きた小松川女子高生殺人事件を基に、日本における死刑存廃問題や在日コリアン問題を追求した大島渚渾身の社会派作品。『キネマ旬報』ベストテン3位。



伽椰子のために
小栗康平/1984年/日本/35mm/117分/配給:劇団ひまわり映画製作事務所
在日コリアン2世の林相俊は、夏の終わりに日本人の両親に捨てられた伽椰子(南果歩)という高校生の少女と出会う。相俊は東京での苦しく貧しい生活を過ごす中、ふと伽椰子のことを思い出していた。翌年、2人は再会し心を通わせていくが、結婚後に共に生きるが互いに若すぎる事を知る。在日差別や帰属意識の問題を通して2人の男女の真摯な心を描いた作品。



戦後在日五〇年史 [在日] 歴史篇
呉徳洙/1997年/日本/16mm/135分/配給:『戦後在日五〇年史 [在日]』製作委員会
第一部「歴史篇」/第二部「人物篇」併せて4時間超。解放から50年間に及ぶ在日の歴史を映し出すドキュメンタリー。本映画祭では第一「歴史篇」のみ上映。まるで洪水の様に入れられる膨大な映像素材と証言が、1回見ただけではとても咀嚼しきれぬ激動の半世紀を語る。製作費は全て有志によるカンパで賄われ、2年余り作り完成された。日本映画ペンクラブ(インシアリカル部門)1位。



GO
行定勲/2001年/日本/35mm/122分/配給:東映
原作は直木賞作家の金城一紀の同名小説。「国境線なんか、俺が消してやるよ」がキャッチコピー。日本の高校に通う在日コリアンの杉原(塚塚洋介)は、朝鮮学校時代の友人と非行に明け暮れていた。ある日、杉原は日本人女性の桜井(柴咲コウ)に出会い、恋に落ちる。朝鮮半島と日本の狭間に揺られ、もがきながら生きようとする一人の青年の姿を痛快タッチで描く。『キネマ旬報』ベストテン1位。



KT
阪本順治/2002年/日本・韓国/35mm/138分/配給:シネカノン
1971年、大統領選挙に湧く韓国。僅差で追った金大中は、朴正熙政権を脅かす存在であったが、朴大統領は非常戒厳令を発令し反対勢力への徹底弾圧を執行する。金は日米を拠点に民主化闘争の為務めに亡命するが、その最中、韓国中央情報部が来日中の金大中の暗殺を計画していた。1973年8月の日韓を暗殺がした金大中事件を再現する。『キネマ旬報』ベストテン3位。



血と骨
崔洋一/2004年/日本/Blu-ray/44分/配給:松竹・ザナドゥー
梁石日のベストセラー小説の映画化。戦後、一旗捲けることを夢見て済州島から大阪に渡ってきた金俊平は、蒲鉾製造業と高利貸しを起して才覚を発揮。事業は成功を収めるが、契に入った女を孕ませて工員たちに誘導制を振るい、独裁的な支配権を行使する。その残された血の運命の末路は——鬼才・崔洋一がピートけしを主演に導く、もう一つの戦後史。『キネマ旬報』ベストテン2位、日本映画監督賞、脚本賞、主演男優賞。



パッチギ!
井筒和幸/2005年/日本/35mm/117分/配給:シネカノン
1968年、京都。朝鮮高校に通う在日コリアンの若者は日本社会の片隅に埋もれまいと「パッチギ」(「原突ぎ」の意)をかまし、なり振り構わず荒れ果てた青春を叩き付ける。鬼才・井筒和幸が新人時代の塚宮、高岡浩佐、沢尻エリカの存在感を引き出し、暗くなりがちな日間課を痛快な娯楽大作に仕立て上げた。『キネマ旬報』ベストテン1位。毎日映画コンクール日本映画大賞。



かぞくのくに
ヤン・ヨンヒ/2012年/日本/35mm/100分/配給:スターツァン
帰国事業で「理想郷」北朝鮮へ渡ったソノハ(井浦新)は、25年ぶりに日本に暮らす妹リョ(安藤サクラ)ら家族の元へ帰国する。だがそれは病気療養のため3か月間だけ許された帰国だった。「国」の監視員が常に目を光らせる中、ソノハの本当の心内は…。在日コリアン2世のヤン・ヨンヒが自らの体験を元に描く「帰国事業」の真実。『キネマ旬報』ベストテン1位、ベルリン国際映画祭C.I.C.A.E賞。



空と風と星の詩人~尹東柱の生涯~
イ・ジユンク/2016年/韓国/Blu-ray/110分/配給:スプリングバスコム
1917年、北朝鮮に生まれた尹東柱(ユ・ドンジン)と従兄弟の宋夢奎(ソン・モンギュ)はソウルの延禧専門学校で過ごした後、1943年日本の大学に進学。だが戦争の末期、宋夢奎は朝鮮独立運動を固く為に逮捕され、尹東柱も共犯の容疑で懲役2年の判決と帰国を受ける。27歳の若さでこの世を去った、韓国の国民的詩人・尹東柱の生涯を映画化した伝記ドラマ。



沈黙~立ち上がる慰安婦
朴善南/2017年/日本・韓国合同製作/Blu-ray/117分/配給:アリアソンのうた製作委員会
大日本帝國軍の慰安隊であった女性たちを支援する「従軍慰安婦被害者の会」の闘いを描いた作品。韓国の伝統衣装マ・チョの着た彼女たちは、従軍慰安婦として受けた体験を伝えるために日本を歩き、抗議と謝罪を呼びかける。慰辱時代の日々を語る彼女たちの証言は誠にも痛く、同時に在日2世の監督の人生も浮かびあがらせていく。『キネマ旬報』ベストテン映画部門6位。